

研究主題

ひびき ひろがる 確かな力

～感じて・考えて 思いをもって音楽を学ぶ子どもの育成～

1 音楽科の現状と私たち

新学習指導要領が告示され、平成23年度から小学校、平成24年度から中学校が完全実施となります。この中教審の答申に先立ち、教育三法の改正があり「学力」の規定が明確になりました。基礎的な知識・技能を習得し、それらを活用して課題を解決するための能力を身に付け、主体的に取り組む（探求する）一連のプロセスを学力とする考え方は、学習指導要領が改訂されても揺るがない理念となっています。

音楽科では、今回の改訂の基本方針として、

① 思いや意図をもつ

音楽のよさや美しさを感じ取り、思いや意図を持って表現する力の育成

② 〔共通事項〕を支えとする

歌唱・器楽・創作・鑑賞の活動の支えとなる事項を〔共通事項〕として示す

③ 音楽をつくる楽しさの体験

小学校の「音楽づくり」中学校の「創作」といった体験を重視させること

④ 根拠をもって自分なりに批評できる力

面白さやよさ、美しさを感じ取り、根拠を持って自分なりに批評できるような力

⑤ 我が国や郷土の音楽

我が国の音楽文化に愛着をもつとともに他国の音楽文化を尊重する態度の育成が示されています。

私たちはこのことを踏まえ、どの子にも

音楽は楽しい

こんな素晴らしい音楽のこなに世界があったの

私にはこんなこともできる力があったのだ

と感じさせる授業をつくることが重要であると考えました。

2 私たちの「習志野」と音楽教育

①市の概要

本市は、船橋・八千代・千葉市に囲まれた人口16万人の市制55年を数える市です。小さ

な市ですが公立幼稚園14園，子ども園1園，小学校16校，中学校が7校，高等学校が公立・私立合わせて4校，さらに私立大学が3校あります。特に，幼保小関連事業に永年にわたり力を注いできたことも本市の特色の一つと考えます。

また，市民の音楽活動も盛んで，各中学校区に一つずつある公民館は，習志野市芸術文化協会（芸文協141団体）の活動場所としても積極的に活用されています。昭和45年には「文教住宅都市憲章」を制定し，より一層教育・文化に力を入れて発展を続け今日に至っています。

②教育施策から

「心豊かな児童・生徒の育成」（音楽のまち習志野）

全小学校に音楽科専任教諭を配置
小中学校音楽会
小中学校管楽器講座
ならしの学校音楽祭

習志野市教育委員会では，重点施策の一つに「心豊かな児童・生徒の育成」を掲げています。そのための一方策として「音楽のまち習志野」がより充実・発展していくことをめざし，「音楽教育の充実」に向けて，積極的な支援体制を取っていただいています。

また，本市では全小学校に併設または隣接の幼稚園・子ども園があり，すべての小学校に音楽科専任教諭が配置されています。

さらに，発表会や校内合唱コンクール等で習志野文化ホールを使用できることは，全国的に見ても大変恵まれた環境で音楽教育を進めることができます。

7月には全小・中学校が参加する「小中学校音楽会」の開催，土曜の学校休業日を利用して習志野高校吹奏楽部員が小学生に直接指導する「小中学校管楽器講座」の開設（9年目），各種コンクールでの成績優秀校と管楽器講座修了生による「ならしの学校音楽祭」（9回目）が開催されるなど，市をあげての音楽的な行事も充実し，「音楽のまち習志野」は広く市民に親しまれています。

学校教育においては全国に先駆けてスクールオーケストラの指導が始まり（昭和25年），現在も，器楽・合唱などの特別活動に熱心に取り組んでおり，全国レベルの成績を収めている学校も多くあります。

また，パイプオルガンを備えた習志野文化ホールは世代を超えて市民の音楽文化活動の殿堂として大きな役割を果たしています。

③習志野の音楽科研究活動

昭和37年度第8回関東音楽教育研究大会「千葉大会」，昭和43年度第5回，平成3年度第26回千葉県小・中学校音楽教育研究大会を開催して以来，10年ごとの学習指導要領改訂を経て今日に至る中で，習志野市教育研究会音楽部会では，各時代の学習指導要領にそった授業はどうあるべきかを研究し，年間2回の授業研究を行ってきました。

④習志野の音楽科の課題（図1）

一人一人の授業力をいかに向上させるか教師

「生涯を通じて音楽の好きな子どもを育てる」ことを通じて児童・生徒一人一人の豊かな心を育む教育の推進及び，「音楽のまち習志野」をより確かなものにするためには，教師の永遠

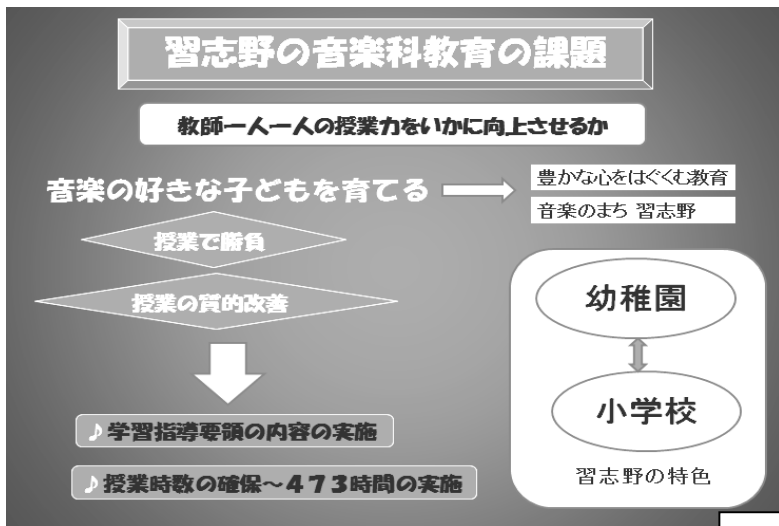


図1

の課題である「授業で勝負」の原点に戻り、授業の質的改善を図ることが必要であると考えました。そこで、この研究の機会を積極的に捉え、私たち教師一人一人の授業力をいかに向上させるかという自らの指導法の改善につなげていきたいと考えました。さらに、新学習指導要領（小学校学習指導要領第1章総則第4（12））で示されているように、幼稚園教育と

小学校教育との連携が一層求められていることから、本市の特色を積極的に生かし、この研究会を通して幼・小をより一層連携させたいと考えました。

これらの研究を具体的に推進するにあたり、音楽教育推進協議会より3年間（平成20・21・22年度）の研究助成を受け、研究を進めているところです。

3 習志野の研究主題と副主題

研究主題を設定するために、まずはじめに実態を把握し、めざす姿について共通確認を行いました。

（図2）

そこから導き出されたのが、次の主題です。

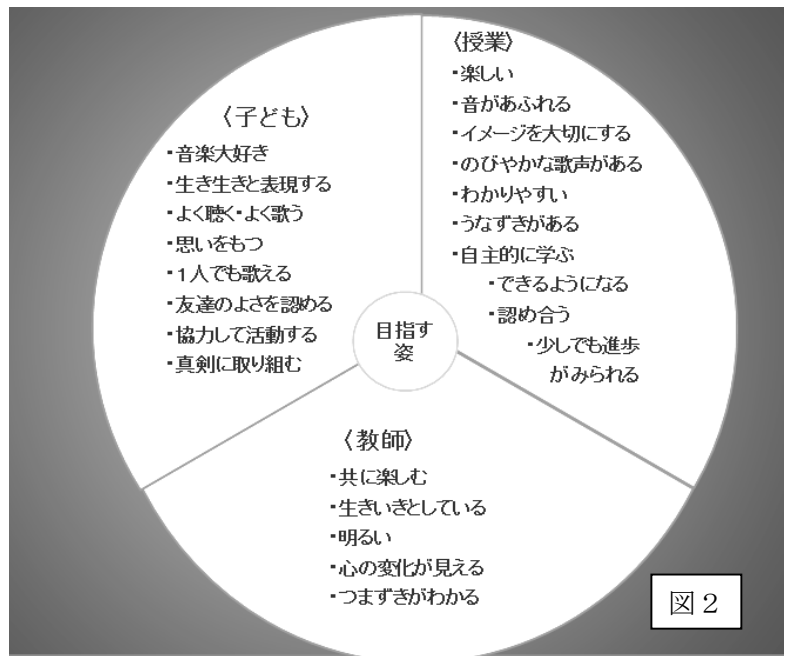


図2

ひびき ひろがる 確かな力

また、それぞれの言葉の意味を次のように考えました。

(1) ひびき

心を響きあわせること

人と人とのコミュニケーションを図ること

音楽の授業では、歌唱や器楽の学習を通して美しい音色やハーモニーを響き合わせる心地よさを味わうことができます。よりよい表現を目指して音色を工夫したり余韻を味わったりする活動も行われます。また、鑑賞を通して様々な響きを味わったりよさや面白さに気付くことも多いでしょう。しかし、ここでいう“ひびき”とはこのような音楽的な意味はもちろんのこと、心を響

きあわせる・人と人とのコミュニケーションを図るといったかかわり合いという意味も込めています。音楽に対するイメージや思い・意図などを伝え合ったり、感じたことを言葉で説明し合ったりすることや、“いいな”“なるほど”など友達のよさを認め合う気持ちをもった子どもを育てる授業をめざしたいと考えました。

(2) ひろがる

生涯にわたって音楽に親しむ心

幼稚園から小・中学校、高等学校までの音楽科教育の系統性、連続性、発展性を意味しています。本市の特徴である幼・小・中の連携を生かし、楽しさ・喜びの体験・知識・技能・能力をそれぞれの学校種で確実に身に付けていこうということです。そのことによって「わかること・できること」が積み重なり、音楽の楽しみ方や思いがひろがって主体的な学習へとつながっていくものと考えます。音楽の好きな子どもをつくり、さらにはどこの家庭にも音楽があふれ、音楽を通して気持ちを分かち合うことができる資質をもった習志野市民像までをイメージし、生涯にわたって音楽に親しむ心を学校音楽教育で培いたいと考えました。

(3) 確かな力

生涯にわたって音楽文化に親しむための力

第1は、学校教育で確実に身に付けさせたい音楽的な知識・技能と、それを活用する能力のことです。そのためには「学習指導要領の内容の完全実施」と、小中学校の課程を修了するまでの473時間という授業時数の確保に努めることが大切です。新学習指導要領で新設された〔共通事項〕は歌唱・器楽・創作・音楽づくり・鑑賞といったすべての活動の支えとなるもので、各指導事項とともに必ず指導しなければならない内容としてわかりやすく示されました。この〔共通事項〕を授業の中でどのように生かすか位置付けを明らかにすることで、指導のポイントが明確になり、確かな力を子ども達に身に付けることにつながると考えます。第2は“ひろがる”と相互に関連し、音楽に親しむための気持ちや、音楽とのかかわり方を含めた確かな力という意味です。“確かな力”を学校音楽教育で身に付けることにより、学校教育を終えた後も音楽と生活とのかかわりに関心をもって生涯にわたり音楽文化に親しむ態度を育むことをめざしたいと考えました。

さらに、私たちの研究をより具体的にするため、小・中学校の副主題を考えました。

小・中学校の副主題

～感じて・考えて 思いをもって音楽を学ぶ 子どもの育成～

また、それぞれの言葉の意味を次のように考えました。

(1) 感じて・考えて

感受・思考・判断する力の育成

たとえば、音楽のよさや美しさを感じることや、音楽に関する用語や記号を音楽活動と関連付けながら理解すること、音や音楽を知覚し、そのよさや特質を感じ取り、思考・判断する力の育成を目指しています。

(2) 思いをもって

・思いや意図をもって ・根拠をもって

小学校での「思いや意図をもって表現する」ことや中学校での「根拠をもって自分なりに批評できる」ことがあてはまります。児童・生徒が自己のイメージや思いを伝え合ったり、他者の意図に共感したりできるように音楽の言葉を用いたコミュニケーションが充実する活動を目指しています。

(3) 音楽を学ぶ

生涯にわたって音楽に親しむ態度

学力を身に付けることを示しています。学習指導要領の内容を実施するとともに、“こう表現したい” “もっと～するにはどうしたらよいか” など主体的に学習に取り組む力を身に付けることを意味しています。学校音楽の姿ともいえる共同する喜びや、全員で一つの音楽をつくり上げる体験は、生涯にわたって音楽に親しむ態度の基盤になるものと考えます。

(4) 子どもの育成

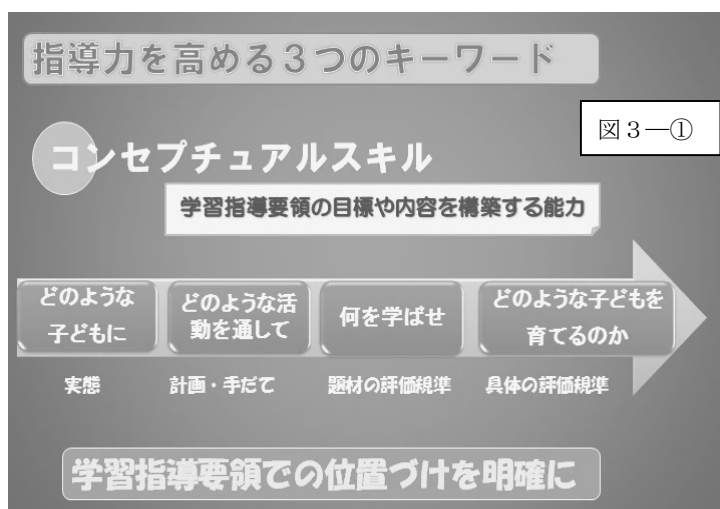
学力の定着

授業の中で“感じて考える場” “思いをもって表現する場” をどのように設定したら効果的か検証したり、模擬授業の実施を積み重ねながら義務教育9年間とその前段ともいえる幼幼幼稚園教育も視野に入れた指導計画を作成することが重要であると考えます。まためざす児童・生徒の姿とともに指導にあたる教師の姿・力量の向上をめざしています。

4 私たちの研究内容と進め方

授業力の向上をめざして

研究主題・副主題を実現するためには教師の意識改革と授業力の向上が急務であると考え、「指導法研修会」を位置付けて取り組んできました。また、授業研究では特に「感じて考える場」や「思いをもって表現できる場」を意図的に設定して取り組みました。そして、事後研修においては副主題に照らし合わせて課題を見付けて解決方法を確認文章化して定着を図る実践を積み重ねてきました。



また、本研究会の全体講師としてご指導いただいている（財）音楽鑑賞教育振興会理事 川池聰先生による教師の資質や指導力を高めるための3つのスキル（図3）をキーワードとして検証することを続けています。

コンセプチュアルスキル

学習指導要領の目標や内容をどのように進めるかという根幹の部分に関する内容の分析と理解に関するスキル

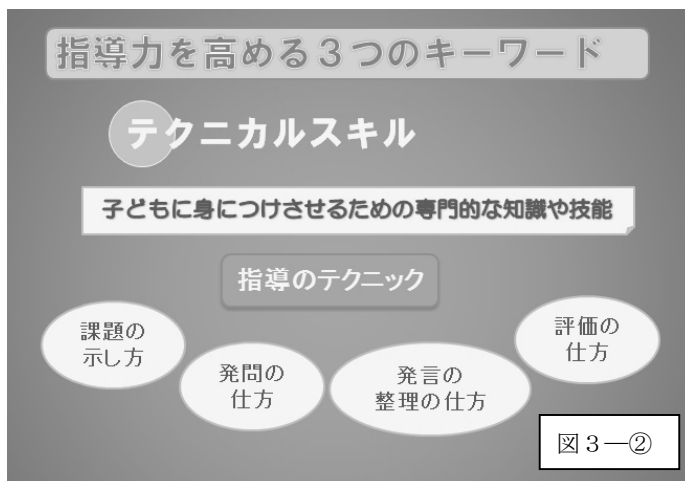
たとえば、どのような子ども（実態）に、どのような活動（計画・手だて）を通して、何（題材の評価規準）を学ばせ、どのような子ども（具体的評価規準）を育てるのか学習指導要領での位置

付けがはっきりしている指導案を作成し、実践する力を指します。

テクニカルスキル

プロ教師のテクニックに関するスキル。プロの教師とは子どもを変えることのできる教師のこと。子どもに身に付けさせるための専門的な知識や技能。

歌唱など教師自身の音楽的技能のことではなく、指導のテクニックのことです。たとえば、課題の示し方・発問の仕方・発言の整理の仕方・子ども一人一人をみとる評価の仕方などのことを指します。



③ ヒューマンスキル

教師にとって最も大切なスキル。子ども一人一人との信頼関係を築き、円滑に授業を進める能力。

たとえば、子どもをその気にさせることができる・一人一人とかわりもてる・子どもの考えに共感できるなどといった姿が挙げられます。

指導力を高める3つのキーワード

ヒューマンスキル

子ども一人一人との信頼関係を築き、円滑に授業を進める能力

子どもをその気にさせる力

一人一人とかわりもてる力

共感的理解ができる力

図3-3

5 本大会でめざしたこと

(1) 私たちは一人一人をみとることが何よりも大切だと考えました。

実際の授業の中には、グループ活動が取り入れられている場面をよく見かけます。その際に、一人一人の思いや意図が認められているか、生かされているかを見極めるようにしました。自分があるグループ、一人一人が思考・判断するものがあるグループであるからです。それは、一斉学習の場合においても同様で、一人一人がねらいに沿った思考・判断ができるように支援するため、発問を吟味するようにしたり、一人一人の意見を書く・発言するなどの認める場を意図的に設定しました。そのためにはどのように授業を構成したらよいか、どのような支援が効果的かがポイントになるため、先行授業等を積み重ねながらよりよい授業をめざしてきました。

(2) 自分の思いが生かせる指導案の形式を考えました。(小・中学校)

指導案の形式について、本研究では見開きで「題材の指導計画」「題材の評価規準」「具体的評価規準」「本時の展開」といった授業全体の流れがコンパクトに一目で見渡せる指導案づく

りに取り組んできました。限られたスペースに授業のエキスを盛り込むためには、より綿密な計画が不可欠でしたが、題材にかかわるすべてのことが見通せる利点があります。昨年の公開授業研究会で提案した形式をさらに検討し、使いやすく改良したものが今回の指導案形式になっ

ています。

●学習指導計画(時間別)		●題材の評価規準		
時	1+2	3(本時)	4	
学習内容	のあて:曲の雰囲気を感じ取る。	のあて:曲の雰囲気をつくり出す「音楽の決め手」を感じ取る。	のあて:曲の雰囲気の移り変わりを楽しむ。	(ア)音楽への関心 意欲・態度 楽曲を特徴付けたり変化をもたらす音楽に 関心をもっている。
学習活動	旋律の変化による曲の雰囲気の違いを感じ取る。	旋律の変化による曲の雰囲気の違いと音楽を特徴付けている要素とのかかわり 合いを感じ取る。	音楽を特徴付けている要素や構成に 関心をもっている。	(イ)音楽的な感受や 表現の工夫 旋律の変化における曲の 雰囲気の違いを音楽を形 作っている 要素とのかかわり合い から感じ取っている。
(共通事項)	弱、反復、変化			(ウ)表現の技能 記号の意味を理解したりリズム、旋律、強弱の特徴を生かして歌っている。
学習活動における 具体的評価規準	(ア)音楽への関心・意欲・態度	(イ)音楽的な感受や表現の工夫	(ウ)表現の技能	(エ)鑑賞の能力 旋律の変化による曲の雰囲気の違いと音楽の要素とのかかわり合いから、楽曲全体を味わっている。

学習内容と学習活動を分けて記載することで何のために(内容)どのような活動(活動)をするのかを明確にしました。

題材の指導計画内の本時の位置づけが同じページで見渡せます。

時系列で支えとなる共通事項がわかります。

〔共通事項〕音色、速度、旋律、強弱、リズム、反復、変化 を支えとした1題材内の歌唱と鑑賞の関連(小4)

曲想の変化を感じ取ろう(4)	
曲想とその変化を感じ取って聴き、楽曲の面白さを味わう。	
●ハンガリー舞曲第五番 ゆかひに歩けば	
歌唱	ア
	イ
鑑賞	ア
	イ
題材の評価規準	ア (ア) 音色、速度、旋律、強弱、リズム
	イ (イ) 反復、変化
	ウ 楽曲を特徴付けたり変化をもたらす、音楽を形作っている要素に関心をもっている。
	エ 旋律の変化における曲の雰囲気の違いを、音楽を形作っている要素とのかかわり合いから感じ取っている。
	記号や音楽にかかわる用語について理解したり、リズム、旋律、強弱の特徴を生かして歌っている。
	旋律の変化による曲の雰囲気の違いと、音楽を特徴付けている要素とのかかわりを感じ取りながら、楽曲全体を味わっている。

(3)〔共通事項〕を支えとした年間指導計画の在り方を考えました。

Point! いかにしてすべての活動をバランスよく配置するか

授業時数が縮減されていく中、限られた授業時間の中で、表現および鑑賞の幅広い活動を通して確かな力を子ども達に身に付けるためには、学びの内容を明確にし、〔共通事項〕を支えとしたいくつかの活動を関連付けて考えることが必要であると考えました。

ア 領域や活動をくみあわせる。(例1)

小学校4年「曲想の変化を感じ取ろう」の題材において〔共通事項〕(ア)音色、速度、旋律、強弱、リズム (イ)反復、変化 を支えとして、歌唱と鑑賞の活動を関連付けてみました。

例1

〔共通事項〕旋律、テクスチャ、音階を支えとした異題材の鑑賞と創作の関連(中2)

曲の仕組みを発見しよう(2)		音階の特徴を生かして リコーダーの音楽をつくろう(3)	
主題の様子や旋律の重なりを感じ取り、 それらが生み出す響きを味わって聴く ことができる。		音階の特徴を生かして個々がつくった リコーダーの旋律をグループで組み合 わせて音楽をつくる。	
●フォーガト短調		生徒作品	
創作	ア		○
	イ		○
鑑賞	ア	○	
	イ		
	ウ		
題材の 評価規 準	ア	旋律、テクスチャ	旋律、テクスチャ
	イ	動機、調、音階、和音	音階
	ウ	曲の仕組みに興味・関心をもって 鑑賞している。	音階の特徴、構成や全体のまとまりな どに関心を持ち、それらを生かして音 楽をつくる学習に意欲的に取り組もうと している。
	エ	様々な形で表れる主題の特徴を感じ 取っている。	音楽の構造や全体のまとまりを考えな がら、どのように旋律を組み合わせる かについて思いや意図をもって表現を 工夫している。
	エ	曲の仕組みが生み出す響きを味 わって聴いている。	音楽の構造や全体のまとまりを考えな がら、旋律を組み合わせたリ演奏した りする技能を身に付けている。

〔共通事項〕

イ 学びの見通しをもつ

中学2年生鑑賞の題材
での学びが、〔共通事項〕
旋律、テクスチャ、音
階が、創作の活動に生か
されるように配置しま
した。(例2)

ウ 学びの連続性・発展性
をもつ

〔共通事項〕を支えとし
て音楽づくりから創作へ、
学年の発達段階に応じた学
習が発展していくように考
えました。(例3)

例2

音楽づくり→創作への連続性

例3

小6		中1		中2	
音楽の仕組みを生かして音楽づくりを楽しもう (2)		音階の特徴を生かして日本の音楽を つくろう(3)		音階の特徴を生かして リコーダーの音楽をつくろう(3)	
音楽を聴いて、音楽を特徴づける要素や仕組 みを感じ取り、それらを生かして音楽をつくる。		陽音階と陰音階の特徴を生かし、音 楽を形づけている要素を用いてモ チーフを変化させて旋律をつくり筆で 演奏する。		音階の特徴を生かして個々がつく ったリコーダーの旋律をグルー プで組み合わせて音楽をつくる。	
●アポロンのまわりで 児童の作品		生徒作品		生徒作品	
音楽 づくり	ア		○		○
	イ		○		○
鑑賞	ア	(ア) 音色、リズム、速度、音の重なり	リズム、旋律、強弱、構成	旋律	テクスチャ
	イ	反復、音楽の縦と横の関係	音階、動機	音階	
	ウ				
題材の 評価規 準	ア	音楽をつくっている要素のかか わり合いに関心を持ち、それらを生 かして音楽をつくる学習に意欲 的に取り組もうとしている。	音階や旋律の動きやフレーズなどが 生み出す表現効果に関心をもっ ている。	音階の特徴、構成や全体のまと まりなどに関心を持ち、それらを生 かして音楽をつくる学習に意 欲的に取り組もうとしている。	
	イ	「音の重なり」や「反復」の仕方 を工夫してどのように演奏するか見 通しをもって音楽をつくっている。	音楽を形づけている要素に気づき、 それらを生かして旋律や構成を工夫 している。	音楽の構造や全体のまとまりを 考えながら、どのように旋律を組 み合わせるかについて思いや意 図をもって表現を工夫している。	
	ウ	「音の重なり」や「反復」を使っ て旋律をつなげることができる。	どのような要素を使ってイメージを 表現しているのか明確にした表現が できる。	音楽の構造や全体のまとまりを 考えながら、旋律を組み合わせ たり演奏したりする技能を身に付 けている。	
	エ	音楽を特徴づける要素と音楽の 仕組みのかかわり合いを感じ 取って聴いている。			
	エ				

〔共通事項〕

6 私たちが本日の研究授業で示したいこと

【研究主題との関連・共通事項を支えとした活動の関連（小・中学校）・一人一人のみとり】

幼稚園 5歳児	谷津幼稚園	<p>・自分たちで遊びを進めます。</p> <p>自分の思いを伝えたり，相手の気持ちを受け入れたり認めたりしながら，がんばってできるようになった得意技を披露する時に<u>クラスの仲間</u>が歌や合奏で盛り上げます</p>
	つくし幼稚園	<p>・リズムの楽しさを感じ取る活動をします。</p> <p>わらべ歌やリズム遊びを通して，表現する楽しさ，友達とつながり合う心地よさを味わいます。</p>
	津田沼幼稚園	<p>・気持ちを合わせて一つの物をつくり上げます。</p> <p>場面のイメージを感じ取りながら，友達と一緒に歌ったり，楽器を奏でたりしながら，ひとつのものをつくりあげていく楽しさを味わいます。</p>
1年	A 表現 音楽づくり アイ 〔共通事項〕 (ア)音色 (イ)問いと答え	<p>・気に入った音で音遊びをします。</p> <p>「きらきらぼし」で音色や強弱に気を付けて演奏した学びをもとにした音遊びです。色々な楽器から，音色を確かめながら気に入った音を選びます。さらに，探した音を問いと答えになるように組み合わせ，簡単な音楽をつくります。</p>
2年	B 鑑賞 イ 〔共通事項〕 (ア)速度・音色 (イ)反復	<p>・自分の言葉で伝える鑑賞の学習です。</p> <p>「汽車は走る」の歌唱から学んだ速度の変化をもとに，「国際急行列車」の速度の変化による情景や気分の移り変わりを感じて想像したことを自分の言葉で相手に伝えます。</p>
3年	A 表現 音楽づくり イ 〔共通事項〕 (ア)リズム・旋律・拍の流れ (イ)問いと答え・変化	<p>・各自の旋律を組み合わせるグループのおはやしをつくります。</p> <p>音楽の仕組みを生かし，思いや意図をもって音楽づくりをすることで，音楽を形づくっている要素を意識しながら表現できるようになることがねらいです。</p>
4年	A 表現 歌唱 イ ウ B 鑑賞 ア，イ 〔共通事項〕 (ア)音色・リズム・速度・旋律・強弱 (イ)反復・変化	<p>・音楽の特徴を聴き取ります。</p> <p>歌唱で学んだ旋律の変化による曲の雰囲気の違いを，鑑賞の授業と関連させ，曲想とその変化を，音楽を特徴付けている要素に結びつけながら聴き深めていくことがねらいです。さらに，鑑賞で身に付けた学びを生かして表現活動ができる子どもをめざしています。</p>

5 年	A 表現 歌唱 工 器楽 イ 〔共通事項〕 (ア)音の重なり・和声の響き (イ)音楽の縦と横の関係	<p>・伴奏を工夫します。</p> <p>声が重なってできる音の重なりや、和声の響きを感じ取った歌唱の経験をもとにして、I、IV、V、V₇の和声の移り変わりによる表情を生かして、伴奏を工夫するがねらいです。和声の響きを感じ取って演奏できる子どもをめざしています。</p>
6 年	A 表現 音楽づくり イ 〔共通事項〕 (ア)音色・リズム・速度・ 音の重なり (イ)反復・音楽の縦と横の関係	<p>・まとまりのある音楽をつくります。</p> <p>鑑賞の学びを通し、音楽を特徴付ける要素や音楽の仕組みを生かして、音楽をつくります。各自がつくった簡単な旋律をもとに、グループで見通しをもち、音楽をつくるのが「できる」楽しさを味わわせたいと考えます。</p>
中 1	B 鑑賞 ア 〔共通事項〕 音色・リズム・速度・旋律・ 強弱	<p>・鑑賞した思いを文章で伝えます。</p> <p>自分で選んだ楽曲を鑑賞し、そのよさや魅力について、なぜよいと思ったのか、音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わらせて考え、言葉や文章で相手に伝える活動をします。</p>
中 2	A 表現 創作 ア 〔共通事項〕 旋律・テクスチャー	<p>・一人一人の旋律を組み合わせる創作します。</p> <p>グループで組み合わせた旋律をリコーダーで演奏します。音楽を形づくっている要素や構造を理解して活用し、創作の楽しさを味わうのがねらいです。また、自分たちの作品についての思いや意図を人に伝えたり、批評したりします。</p>

おわりに

本日の習志野市幼小中学校音楽教育研究大会では、これまでの3年間の研究の成果を発表させていただきました。各会場での授業研究でご指導いただきました講師の先生方やご参加いただきました皆様からのご指導、ご助言をもとに今後の方向性を見極め、本市の音楽教育の充実に向けてさらに研究を深めていきたいと思います。

おわりに、本研究を進めるにあたりご指導いただけてまいりました(財)音楽鑑賞教育振興会理事 川池聡先生・3年間の研究助成をしていただきました音楽教育推進協議会と講師の先生方・千葉県教育委員会・千葉県音楽教育研究会並びに顧問会・習志野市教育委員会各位に深く感謝申し上げます。

《参考文献》

- ・小学校学習指導要領解説 音楽編(文部科学省)
- ・中学校学習志度要領解説 音楽編(文部科学省)
- ・新しい音楽科指導の内容と方向性～習志野レポート①～⑤(川池 聡)